



TITLE:

新に大阪支部を設置せよ : 支部欄

AUTHOR(S):

西森, 菊雄

CITATION:

西森, 菊雄. 新に大阪支部を設置せよ : 支部欄. 天界 1935, 15(173): 442-443

ISSUE DATE:

1935-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167085>

RIGHT:

NO. 15 ヘルクレス座新星増光(六月一日). NO. 16 大阪の隕石は誤り(六月十八日) NO. 17 七夕の集ひ通告(七月五日). NO. 18 天文圖書の調査(七月二十六日)

○八月五日から大阪市の天文協會と共同でペルセウス座流星群協同觀測が行なはれる. 詳細は「京星」「ミルキイウエイ」各七月號にある.(宇野生)

新に大阪支部を設置せよ

地方委員 西 森 菊 雄

東亞天文協會が頗る刷新展開を期して支部の強化, 地方委員の設置天界の改革, 新雑誌の創刊等と新機運の醸成に, 亦大阪市にプラネタリウム, 生駒山上に民衆に公開される氣象天文臺の實現も時日の問題となつたのは偏に會長始め方々の御盡力によるもので邦家天文學界の爲に欣ばしき次第である, 是等の實現は大いに國民の天文學教育に寄與する處大で遅れ勝ちな我が天文學に拍車をかける事になる.

日本の一般國民の教育程度は決して歐米諸國に比して劣つてゐるとは言へないのであるが天文學の知識となると其は危い, 是は天文學は難しいもの, 大望遠鏡が要るもの, 實社會とは縁遠い學問であると言ふ先入主の爲でもある, 然し雜然たる星の配列から星座を見出し神話を回想し, 大小色さまざまな星の瞬きに見入り, 變光星・流星・黃道光・太陽黑點を肉眼或ひは小望遠鏡で觀測する事は易く, 誰にも興味となるものである, 是等を出發點として多人數に天文學の理解を進める事は容易である, 地方に於ける先輩者が入門者を指導し, 共に研究する團體を持つ事は之等を實現する機關として必要である, 今日迄協會が其の爲に當地に支部を設けて來たのであるが愈々實績を擧げべく積極的に支部の強化を計るのは吾人として既に遅しの憾みもないではない.

新らたに出来るプラネタリウム, 生駒天文氣象臺の設立によつて新會員が殺到して入會し, 亦舊會員間の親密の度も加へられる事も想像出来る, 其の時, 大阪支部の存否は大きな役割を左右するものである, A. A. R 天文研

究會は本部を大阪(西區北堀江電停前弘文社内)に持ち攷々として實地天文學の研究と普及に微力乍ら積年の間資して來た、目下同會本部に於いて天文協會の新大阪支部の設置を提唱しその具體化を進めてゐる、此の際に臨んで大阪在住會員諸兄の絶大なる贊助を俟つ次第である。

〔附記〕 過日協會本部より高城先生來阪し當地の地方委員伊達英太郎氏、西藤菊雄氏に、天文研究會本部の弘文社主人も交へ、長時間に涉つて大阪地方發展の下相談が行はれた。

水 澤 よ り の 便 り

暑 中 御 見 舞 申 上 げ ま す

歸朝後既に一年近くなりますが、その間とかく雜事にとりまぎれ御無沙汰がちに過しました、お許を願ひます。

さて又此の度のバりに於ける萬國天文聯盟總會の事は既に新聞で御承知の事と存じます、當所の所長木村博士の緯度變化委員會長の辭表が同會に提出されました結果、今回終にその委員會長の椅子は英吉利に、中央局の仕事は伊太利に移る事と決定致しました。天文學上我國の唯一の誇はか様にして永遠に消去り、同時に我國に於ける測地天文學の發達の上には一つの致命的な損失をもたらしました。誠に惜しむべく憾むべき事であります。これ一つには私どもの臍甲斐なきの致すところ罪を深く天下に謝すると共に、木村所長指揮のもとに今後も尙觀測と研究に勵みたいと存じます、御同情ある御鞭撻を一重にお願申上げます。

昭 和 十 年 夏

岩手縣水澤町
緯 度 觀 測 所

川 崎 俊 一

此の報知は我が國の學俗界を暗くするものである。木村博士の後繼者が我が國に無いとは決して思はれないし、水澤が國際通信交通上急に不便になつたとも思はれないし、要するに天文の最高幹部に人を見る明と愛國心とがあつたならば、こんな結果にならなかつたと思ふのだが。(編輯小僧)